

## 企業ニュース

## 市場最前線の情報を共有化

## K2コーティング・マスターズ

ピアレックス・テクノロジーズ(本社・大阪府泉大津市、社長・北村透氏)が開発した光触媒フッ素樹脂コーティング材の責任施工組織「K2コーティング・マスターズ」は2月24日、大阪市内のホテルで第4回会議を開催した。第1期認定施工店13社に加え8社が新たに加盟、新世代光触媒塗装の普及に向け活動が本格化してきた。

ピアレックス・テクノロジーズの光触媒塗料技術は、これまで無機系バインダーが常識であった光触媒コーティング材の世界に有機バインダーという新たな概念を成立させたことが画期的。それ自体が高い親水性を持つデュポン社のフッ素樹脂「ナフィオン」を用いた光触媒塗料として世界で初めて塗料化に成功。①バリア層不要の一層コーティング②弾性塗膜、シーリングへの適応③施工直後の完成検査で汚染除去性能の確認可④従来に比べ大幅なプライスダウンなど、光触媒塗装の市場性を格段に高めた。

この商品力に呼応した施工店からの要請でメーカーとの10年連帯保証を付保する責任施工組織「K2コーティング・マスターズ」を昨年6月に結成。住宅塗装の元請けなどいずれも事業意欲の高い事業者で、同塗料の優位性を武器に物件獲得率を高めている。

今回の会議では新たに8社のメンバーが加盟。冒頭であいさつに立った同会会長の小山秀樹氏(岡山・小山塗装社長)は、「現場が忙しくなる時期にさしかかってきました。今回8名の新たな会員を迎え、会の存在感を更に高め

ていきたい」と述べ、新会員をそれぞれ紹介。また小山氏自身、それまで懐疑的であった光触媒塗料に対して、ピアレックス社の説得力ある説明と対応、そして塗料自体の商品力に惚れ込み、会の発足に至った経緯を説明。「会員はいずれも施工品質、営業センスともに素晴らしい能力を持った企業。良い意味でライバルとして、また同じ価値観を持った友として絆を深めていき

たい」とあいさつした。

会議では毎回、会員同士が事例発表を行い、有益な情報の共有化を図っている。今回も、同会の専用塗料「K2コート」の防藻・防カビ効果の実曝での確認、大型案件での採用予定、最適なスプレーガンの提案、受注率を高めるためのデモ事例、他社品利用との利益格差シミュレーションなどさまざまな角度から事例を発表。市場の最前線で活躍する企業ならではの有益な情報もたらされた。

会員は塗装業の他、左官業、総合リフォーム業、サイディング專業者、建物解体・クリーニング業など多彩な顔ぶれ。塗装業とは異なったアプローチ



手法なども披露され、情報の幅と厚みが増してきている。

また、成功事例だけにとどまらずクレーム事例についても同社技術部による原因究明と対策を分かりやすく解説。品質向上のための技術情報の共有にも余念がない。

同会は更に全国100社をめどに会員増強を図っていく。